

# 第 分科会(小学校学級活動部会)

## よりよい生活や活動づくりに主体的に取り組み、 共感的し合う人間関係を形成する学級活動

### 1 研究内容

- (1) 子どもが自らの行い方を振り返り、より良い学級や学校の生活づくりに向けてどのように取り組むべきか。
- (2) 話し合いなどを通して、自分で考え、判断し、行動できる力を高めていくためにどのように取り組むとよいか。

### 2 提言の要旨

よりよい生活や活動づくりに主体的に取り組み、  
共感し合う人間関係を形成する学級活動

札幌市立星置東小学校 横山 健太郎

#### 提言内容

本校は札幌市の北西に位置し、間近に手稲山、隣接する公園にはスケート場があり、環境に恵まれた学校である。校区内に新興住宅街ができ、児童数は年々増えている。子どもたちは落ち着いており、真面目に物事に取り組む反面、受け身の児童が多く、校内児童アンケート結果からも、自分に自信のない子が多い。

よりよい生活や活動づくりに主体的に取り組み、共感し合う人間関係を形成する児童を育成するためには、互いの思いを伝え合い、理解し、協力し合う学級風土の醸成が必要である。自分の思いや願いを進んで実行しようとする意欲や、自分たちの課題を解決する力を高め、自分に自信をもって前向きに生きる強い心を育みたい。そこで、本学級ではP D C Aサイクルを意識した係活動に取り組んできた。

#### (1) 係決めの学級会と係活動

##### 事前指導

前年度の内容を振り返り、子どもたちには、どんな係があるとより学級が楽しく豊かになるか事前に考えさせた。計画委員会では、休み時間を使い、話し合う内容や目的、進め方を確認し、スムーズに進行できるようにした。

##### 学級会

司会グループが進める中、出し合う段階で  
昨年係もあつたが、蔵場合う段階でそれら

の係は設立されなかった。過去の経験など、互いの思いを伝え合い、理解したことによってその係を提案した児童もその思いに共感し、別の係に所属を決めていた。

##### 実践へ向けて

各係の目的を全体で再確認し、役割意識をはっきりとモチ活動に取り組んだ。

#### (2) 計画 (PLAN)

各係の話し合いの時間を確保するために、毎週月曜日の給食時間は、係で集まって食べている。一週間の計画を立て、いつ誰が学級のものに知らせるかなどのお話をする時間としている。そのため、見通しをもって活動することができている。

#### (3) 実践 (DO)

どの係のイベントも基本的に全員が参加できる時間、場所で行えるようにしている。また、どの係も週一回以上活動を継続して行っている。また、イベントの内容が似ている係は、他の係よりみんなに楽しんでもらえるように活動を工夫している。

#### (4) 振り返り (CHECK)

自分たちが思い描いていた反応と違っていた場合、なぜそうなったか考えるようにしている。より学級のみんなに楽しんでもらうために、アンケートをとり、どんな活動をしてほしいか、みんなの思いを取り入れようとしている係もある。

#### (4) 次の活動へ (ACTION)

アンケートを基に次の計画を立てて活動を行ったり、問題が起こった内容を聞きとり、改善してルールを工夫したり、みんなでより楽しめる活動にできるよう主体的に取り組んでいる。

実践を通して、主体的に取り組んでいる活動は、子どもたちの自信につながっている。教師の関わり方などの課題をクリアし、学級活動の充実を図りたい。

### 3 研究討議

#### <討議の柱1>

よりよい生活や活動づくりにおける自己の役割を自覚し、主体的に問題を解決していく学級活動はどうあるとよいか。

主体的に係活動に取り組みさせるために、子どもたちが「やりたい!」と思える係活動を設立していく必要がある。児童の得手不得手も考慮し、学級の実態に応じて人数制限も設ける必要があるが、児童の主体性を促す教師の関わりを意識していきたい。

他の学級の仲間が楽しく過ごせるようにするために、困り感はステップアップのチャンスとなる。子どもたちが何に困っているのか、より良い活動のためにどんな手立てがあるのか、子どもたち同士で話し合ったり教師が関わったりすることで、自分の役割を意識しながらより良い係活動へと繋げていきたい。各係の活動内容も、子どもたちが「やりたい」ことに取り組みさせたい。初めはイメージがあったり、新しいことにチャレンジしていくが、活動に慣れてきたり、新しいものがなくなってくると徐々に活動が停滞していきがちである。必要に応じて教師が子どもたちの思考を広げたり、新たな活動のアイデアを与えたりするような関わりをしていくことも大切である。

#### <討議の柱2>

仲間を共感的に理解し、より良い人間関係を築くことができる学級活動はどうあるとよいか。

学級活動を充実させ、より良い人間関係を形成していくためには集団内の全員が同じ土台や条件で活動し、思いや願いを共有していけるよう環境づくりをしていく必要がある。係活動においては、子どもの主体性を重視しなければならないのはもちろん、活動の準備のための場や時間を保障することも大切である。その中で、係の活動計画をカレンダーにするなどして、メンバーが見通しをもって活動に取り組むことができるように支援していくことも有効な手立てである。

活動の報告会などを行うことによって、仲間がどのような活動を行っており、どんなよさがあるのかを確かめ合ったり認め合ったりすることで、共感的な風土をつくっていきけるような教師の関わりをしていきたい。

子どもたちの役割を固定化せずに、輪番等で様々な役割を経験させることで、多様な思いや願いをもち、仲間と共感できるような活動を構成していきたい。

### 4 指導助言

小集団での話し合いにPDCAサイクルを活用することで、より多くの児童が主体的に学級活動に参加する機会が生まれる。

係活動は相手意識が全てとなる。必要に応じて教師が関わることで子どもたちが相手意識をもって取り組めるようにする。

学級会では、低学年のうちから司会を任せる、提案理由に沿って話し合いを進める、互いの思いを考えて折り合いをつけるなどの経験を積ませることが重要である。教師による価値付けを重ねていくことで主体的に問題を解決しようとする思いを養いたい。

低学年ではまず当番活動に責任をもって取り組む経験を積ませる。その中で生まれる子どもたちの思いを見逃さず、主体的な係活動に繋げていくことが大切である。

当番活動や係活動などからも子どもたちに自己有用感をもたせたい。子どもたちが自信をもつことがアイデンティティを形成していく。

なぜ自分が教師になったかを今一度思い返して子どもたちと関わってほしい。学力の他にも大切なことがたくさんある。よい人間関係を形成していく力を育てていくのは特別活動の役割。今だからこそ特別活動でできることを意識して取り組んでほしい。

### 5 今後の課題

成果を挙げるためには、子どもの主体的な思いや願いを尊重した教師のねらい・見通し・関わりが不可欠であることが再確認された。発達段階に応じた活動を構成することで、より良い人間関係を築いていくことを意識していく。